

第4学年 学力向上のための学習指導案（国語科）

日 時 令和元年6月14日（金）第6校時
 場 所 越知小学校 4年教室
 対象学級 4年 31名
 指 導 者 T1
 T2

1. 単元名 「心にのこった平和を考える本を紹介しよう」 ～「一つの花」（光村図書 4年上）～

2. 単元の目標

- ◎作品の中の大事な言葉を手掛かりに場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。
- 紹介したい本を選んで読み、強く心に残った言葉や紹介したいことを明確にして書くことができる。

3. 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
物語を読み、心に残ったことをもとに、進んで内容を友だちに紹介しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・くり返し出てくる言葉（キーワード）を手がかりに、場面や登場人物の気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。 C(1)ウ・エ ・「一つの花」の読み取りを通して感じたことや考えたことをなど自分の考えをもち、他者と共有することができる C(1)オ・カ 	<ul style="list-style-type: none"> ・様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。 (1)オ ・文章全体の構成や内容の全体を意識しながら音読している。 (1)ク

4. 単元設定の理由

(1) 学習指導要領を受けて

この単元は、学習指導要領の下記の内容を受けて設定したものである。

<p>「C 読むこと」 内容…目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。(1)ウ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。(1)エ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。(1)オ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。(1)カ</p> <p>「言葉の特徴や使い方に関する事項」 内容…様子や行動、気持ちを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。(1)オ 文章全体の構成や内容の全体を意識しながら音読すること。(1)ク</p>

本単元では、教材文「一つの花」を読み、「登場人物の様子や気持ちの変化を場面ごとに比較しながら、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像すること」をねらいとしている。同時に、「平和について考える本」の並行読書を取り入れ、本教材「一つの花」のように、題名（または見出し）や文中にくり返し出てくるキーワードに着目して本を読み、そのテーマに沿って本を紹介するという活動につなげていく。

本教材は、四月の教材「白いぼうし」に続く、文学的文章であり、今後「ごんぎつね」、「プラタナスの木」「初雪のふる日」(四年下)へとつながっていく。戦争に関連した単元の学習としては、三年下「ちいちゃんのかげおくり」から、六年「平和のとりでを築く」へとつながっていく教材であり、本学習を通して、文章を読んで理解したことについて、自分の体験や既習の内容と結び付けて、感想や考えをもつなど四年生に求められている「考えの形成」へとつなげていく。

本教材、「一つの花」は、主人公「ゆみ子」とその両親の戦争中から戦争後までの様子を描いた物語であり、平和への願いと家族愛が主題となっている。物語前半の場面は戦争中、後半は戦争後という構成になっており、前半と後半を対比的にとらえることによって、戦争と平和がもたらすものととらえることができる。また、くり返し出てくる「一つだけ」に着目し、場面による意味の違いを対比的にとらえることで、題名「一つの花」の象徴性に気付かせ、物語の作品世界に迫ることができる教材である。また、本教材を通して戦争について理解し、その叙述にそってキーワードや登場人物を整理しながら読み進めることができる。戦争を身近に感じるのが難しい今、親と子が離れ離れになること、家族が命を失うこと、必要なものがないということ。想像することも難しいからこそ、これらの戦争文学という作品を読み、ともに平和について考えることに取り組みたい。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、四月に「白いぼうし」において、登場人物の性格や気持ちを想像しながら読むことを学習してきている。学習では、表現の工夫に着目して情景を読むとともに、行動や会話などの叙述を基に、人物の気持ちや性格を想像しながらファンタジー作品を楽しむとともに、作品の象徴である夏みかんの価値やそれに込められた思いを考える学習を行っている。また、本教材と同じテーマでは、三年生下「ちいちゃんのかげおくり」において、戦争が幼い子どもまで巻き込む悲惨さについて学習を重ねてきている。それぞれに学習において、登場人物の性格や気持ちを想像しながら読み取る活動は続けて行ってきた。しかし、四月の総合学力調査では、「文学的文章の心情理解についての問題」の正答率(61.3%)が、全国と比較すると4.2%下回っており、すべての児童が十分に理解できているとは言いがたい。文学的文章の読み方について、今までの学習での読み方などもふり返りながら、本単元の学習へと進めていきたい。

本単元では、場面ごとの人物の行動や会話に着目して読み進める活動を通して、作者が特別な意味を込めた言葉について、一人一人の考え方や感じ方の違いにも気付かせるとともに、児童同士の学び合いの場を効果的に設定することがポイントとなると考えている。ペア学習での伝え合いによって、全員が自分の考えを説明する場も担保して授業を構成していくようにしていきたい。

(3) 指導観

単元の指導に当たっては、題名の「一つの花」とそれに関わって各場面に戻ってくるキーワード「一つだけ」に注目して、人物の気持ちや場面の情景を結び付けながら読む力を育てていきたい。また、並行読書を取り入れ、様々な平和について考える本を読み進め、言語活動として、自分が紹介したいと思う本について、心に残ったこと(キーワード)を基に紹介するカードを作ろうというゴールを設定して取り組む。各時間での教材文の読み取りでは、戦争中と「十年後」の戦争後の場面の移り変わりととらえることはもちろん、両親のゆみ子に対する思いを叙述に即して言葉にこだわりながら読むことに取り組む。また、「一つの花」という題名が象徴するテーマをめぐって、さまざまな角度から着目することができることから、人との考え方や感じ方の違いへの気付きを促し、自己の考えの形成につながる読みを広げたい。

本時は、これまでの学習を生かして、「一つの花」という題名に込められた思いについて考えさせることをねらいとしている。考えの根拠を文章中から見つけ言葉で自分の考えを伝え合う活動を通して、お互いの考え方のよさや表現方法のよさを認め合いながら、問題解決への考え方を広げたり、言語による見方や考え方を育てたりすることにつなげていく。正解のない問いであるからこそ、一人一人の考えを持つことの大切さや、お互いの考え方のよさや表現方法のよさを認め合いながら、問題解決への考え方を広げたり、言語による見方や考え方を育てたりすることにつなげていきたい。前時までに学習した場面の移り変わりや登場人物の気持ちなどについて、既習の学習の流れを掲示しておき、いつでも確認ができるようにし、さらに前時までとのつながりについて考えることができるようにしたい。意見交流が深まらない場合は、文章の叙述に戻って考えさせたり、教師が効果的に切り返しの発問をしたりすることで、

ねらいに迫る学習をすすめたい。さらに、学習後には「一つの花」という題名に込められた思いについて100字以内で表現させることにより、友だちとの話し合ったことをもとに、自分の考えをより深めて考えさせる。

(4) 研究主題との関連・指導観

本校の研究主題である『自ら学び、豊かに考える子どもを育む～対話を通して、確かな力につなぐ子ども参画型の授業～』を実現するために、国語科においても言葉による見方・考え方を働かせながら、教科の本質に迫る学びができるよう指導方法についての研究を重ねている。本単元においても、どこからそう考えたのか、なぜそう思ったのかを叙述の中から自分の考えの根拠や理由を見つけて、グループや全体で対話する場面を多く設定し、対話をする事の良さや自分の考えを表現することが苦手な児童もしっかりと表現できるようにしたい。考えの形成へのアプローチとして、日々の学びの積み重ねを掲示物として残すことや、既習の学習を振り返れるワークシートの工夫など、視覚支援を図ることで、「子どもたち」自ら進んで学びに向かう態度を育てていきたい。

5. 指導と評価の計画（全10時間）

関：国語への関心・意欲・態度

読：読むこと

言：言葉の特徴や使い方に関する事項

次	時間	学習内容	評価			
			関	読	言	評価規準（評価方法）
1	1	○「一つの花」の題名などからどのような物語なのかを想像し、話し合おう。 ・今までの文学的文章の学習を想起させ、物語文の読み方を確認する。 ・「一つの花」の題名や物語冒頭の文から、学習の見通しを立てるとともに、本文を通読し、心に残った場面とその理由についての感想を書く。		○		・題名や冒頭文で問いかけられていることを意識しながら、読み取ったことをもとに感想を書くことができている。 [発言・ワークシート]
	2	○「一つの花」の学習の計画を立て、平和について書かれた本を読もう。 ・「すみれ島」の読み聞かせを聞き、「平和について考える本」への興味をもつとともに、学習のゴールを共有する。 (並行読書)	○			・平和に関する本を選んで読み、学習に関心をもっている。 [発言・観察・ワークシート]
2	3	○「一つの花」を登場人物・出来事、キーワードなどを手がかりに場面分けをし、物語のあらすじをまとめよう。 ・物語の設定と場面の展開をとらえ、大体の内容を把握する。 ・自分の紹介する本のあらすじについても確認する。		○		・物語の設定と場面の展開をとらえ、大体の内容を把握している。 [発言・ノート]
	4	○生活の様子や会話や行動などから、登場人物の性格や気持ちについて考え、話し合おう。 ・第二場面の前半までを読み、ゆみ子や両親の性格や気持ちなどについて友達との対話を通して読み取る。 ・自分の紹介する本の登場人物の性格や気持ちなどについても確認する。		○		・「一つだけ」という言葉の意味を考えながら、戦争中の物質的に欠乏しているゆみ子をとりまく状況やゆみ子の将来を案じる両親の思いを叙述をもとに読み取っている。について読み取ることができている。 [観察・発言・ノート]

	5	<p>○お父さんがゆみ子に手わたした「一つの花」(キーワードとなる言葉)にはどんな思いや願いがこめられているのか考え、話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第二場面の後半を読み、ゆみ子の家族と他の見送りの様子を対比させながら、お父さんがゆみ子にコスモスの花を手渡した思いや願いについて話し合い、考えを深める。 ・自分の紹介する本のキーワード(くり返し出てくる言葉や象徴となるもの)などについても確認する。 	○	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お父さんがゆみ子に手わたした「一つの花」には、どんな思いや願いが込められているのかを読み取ることができている。 <p>[発言・ノート]</p>
	6	<p>○十年後のゆみ子の姿を戦争中と比べながら読み、「一つだけ」という言葉が第三場面で出てこなかった理由について考え、話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第三場面を読み、戦争中と10年後のゆみ子の場面の様子を表す言葉から暮らしぶりや心情を対比しながら読み、お父さんの願いがどうなったかを話し合い、考えを深める。 ・自分の紹介する本で比較されているものや変化しているものについて確認する。 	○	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くり返し出てくる言葉(キーワード)を手がかりに、場面や登場人物の気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができている。 <p>[発言・ノート]</p>
	7 (本時)	<p>○なぜ作者は、「一つの花」という題名をつけたのかを考え、話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この作品の「一つだけ」「一つ」という言葉の役割について、叙述をもとに考えることを通して、作者の意図について自分の考えを話し合い、考えを深める。 	○	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを生かして、「一つの花」の題名について、感じたことや考えたことをなど自分の考えをもち、他者と共有することができている。 <p>[発言・ノート]</p>
3	8 ・ 9	<p>○学習したことを使って、友達におすすめするための「平和を考える本の紹介カード」に書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習してきた物語を読む時の視点を生かして、書く事がらを決め、紹介するために必要な項目を選んで紹介カードを書く。 	○	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一つの花」の学習を生かし、紹介したい本の心に残ったことをもとに、進んで友達に紹介しようとしている。 ・気持ちや様子を詳しくする言葉の性質や使い方を理解している。 <p>[紹介カード・観察・ノート]</p>
	1 0	<p>○「平和を考える本」を紹介し合い、感想を伝え合おう。</p>	○	<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の紹介の仕方から、一人一人感じ方に違いがあることに気付くことができている。 <p>[発言・観察・ノート]</p>

6. 本時の構想 (本時 7 / 10 時)

(1) 本時の目標

- 「一つの花」という題名に込められた思いについて、それぞれが感じたこと考えたことを根拠をもとに交流することができる。

(2) 教科の働かせたい見方、考え方

- 「一つの花」という題名についてくり返し出てくる言葉など叙述を手がかりにして、他の場面と比較したり、登場人物の気持ちを考えたりすることで本時の課題に迫る自分の考えをもつ。

(3) 本時の評価規準

- 学習したことを生かして、「一つの花」の題名について、感じたことや考えたことをなど自分の考えをもち、他者と共有することができている。

(4) 研究協議の視点

- 学習したことを生かして、「一つの花」の題名について、感じたことや考えたことをなど自分の考えをもち、他者と共有することができていたか。

(5) 展開

学習課程	学習活動	○教師の働きかけ ◇評価 (方法)	学習用語
【導入】 (5分)	1 今までの学習を振り返り、お気に入りの場面の音読をする。 ○ペアでふり返りをし、それぞれのお気に入りの場面の音読を3分でしましょう。	○教師の働きかけ ◇評価 (方法) ○今回の音読のポイント「登場人物の気持ちになって読む」を確認し、目的意識をもって音読をさせる。 ○机間巡視をしながら、個々の音読の読みを確認する。	登場人物
【展開】 課題把握 (5分) ・シラバス ・言語わざ	2 本時の課題を確認する。 Ⓢ 「一つの花」という題名に込められた思いについて、それぞれが感じたこと考えたことを根拠をもとに交流しよう。		
解決活動 ・自力解決 (5分)	3 「一つの花」という題名に込められた思いについて、自分の考えを整理し、短冊に記入する。 ○自分の考えが友だちに伝わるように、本文のどこから考えたのか(根拠)が分かるように書きましょう。 ・「一つの花」という題名には、戦争に負けずに生き抜いてほしいという思いが込められていると思います。第二場面の最後にお父さんが「ゆみ子のにぎっている、一つの花を見つめながら。」汽車に乗って行っている様子からそう考えました。	○自力解決の見通しが持てているか ハンドサインチェックを行う。 ○見通しが持ていない児童には、掲示物や今までのワークシートをもとに考える手がかりとなるものを示す。	
・グループ 学習① ・グループ 学習②	4. 「一つの花」という題名に込められた思いについて、グループで考えを伝え合う。 ○各班(4人)で自分の考えを書いた短冊を見せ合い、ボードにカテゴリー分けをする。 ○二つの班が一つのグループ(8人)になり、各班での話し合いから、共通点や相違点を見つけ、カテゴリー分けをする。 (グループの中で、発表者を決める。)	○登場人物の行動や会話、場面の变化、キーワードとなる「一つだけ」の叙述から想像される、「一つの花」の題名に込められた思いを具体的に考えさせる。 ○補助発問「一つの花」という題名によって、作者はわたし達読者に何を伝えたかったのかな。」と切り返すことによって、より深く考えられるように支援する。 ○個々の考えを分類しながら掲示させ、類似点や相違点を意識しながら発言させるようにする。 ○自分の考えと比べながら聞くようにさせ、自分と違う考え方は、ワークシートに書き足すよう促す。	

<p>全体学習 (15分) ・学び合い</p> <p>・考察</p> <p>まとめ (5分)</p>	<p>○発表者は、グループに残り話し合ったことを報告する。発表者以外は、他のグループに分かれて移動し、報告を聞き、意見交流を行う。</p> <p>5 グループ学習をもとに、「一つの花」という題名に込められた思いについて、さらに深く考えたことや自分の考えが変わったことを話し合う。</p> <p>○出た意見から、考察をします。グループ学習から、「一つの花」という題名に込められた思いについて、さらに深く考えたことや自分の考えが変わったことはありますか。 ・私は、他のグループの考えを聞いて、「一つの花＝たった一つの命」として考えることもできるとわかりました。だから、命の大切さについても伝えたかったのかしれないと考えました。</p> <p>5 学習のまとめをする。</p> <p>○学習したことを生かして、「一つの花」という題名に込められた思いについて、自分の考えをまとめましょう。(100字以内)</p>	<p>○各班、各グループでの話し合いの内容をワールドカフェ方式で交流する。</p> <p>○学習したこと、話し合ったことをもとに、友達の考えも参考にしながら改めて、題名に対する作者の意図について自分の考えをまとめるように支援する。</p>	
<p>【終末】 振り返り (5分)</p>	<p>6 学習したことを振り返る。</p>	<p>○学習を通して、自分の考えが深まったことを振り返りに書くように指示し、意識させる。</p>	